

第23回

ARAI VIETNAM CO., LTD. アライベトナム



ベトナムで自社ブランド「L'AUBE」の販売を展開しているアライベトナムの大藪社長(左)

●業務内容

寝装インテリア製品の製造、販売。
特にメインを真空パッククッション、ピロー、寝装品の縫製。

●株式会社アライ(本社)

京都市北区上賀茂岩ヶ垣内町6-1
Tel: 075-781-8231 Fax: 075-781-8232
URL: www.sofiapack.com E-mail: arai@hcm.fpt.vn

●ベトナム工場 総敷地面積:約5700㎡ 工場延床面積:約3300㎡

No101/1-3 AMATA IP, Bien Hoa City, Dong Nai
Tel: (+84-61) 3936 694/5 Fax: (+84-61) 3936 696
URL: www.laube-vn.com E-mail: araivietnam@sofiapack.com

株式会社アライは1961年創業のクッション・枕の真空包装加工・製造販売を中心とした軽寝具の製造販売を行う企業で、本社は京都市北区に所在しています。

ベトナムには2001年にアマタ工業団地に現地法人であるアライベトナムを設立しており、真空パックのクッション、ピロー(枕)を中心とした寝装インテリア製品の製造・販売・輸出行っています。

今回はアライベトナム社の大藪社長にお話を伺って来ました。

ー主な事業内容を教えてくださいませんか？

弊社は2001年10月にアマタ工業団地に設立した外資100%法人で、クッション・ピローと寝具の製造を主に行っている会社です。設立当初は日本への輸出をメインとして生産を行っていましたが、2004年からはベトナム国内販売向けの商品の製造も開始しておりまして、現在弊社の商品はメトロ、ビッグCなどの大手量販店のみならず、ベトナム国内のインテリアショップ、寝具ショップなどでも販売させて頂いております。

現在の販売比率は約65%がベトナム国内向けで、海外への輸出は35%程度となっており、当初の輸出向けの生産とは逆転した形になっています。

弊社の特徴としましては、クッションや枕の真空パック技術に独自の技術を持っておりまして、真空パックの寝装具類の販売では日本でもトップクラスのシェアを有しております。

弊社の製品の殆どがいわゆるクッションや枕になりますが、クッションの中身には綿以外にもマイクロファイバーといわれる通常の綿よりも柔らかい素材を利用した商品も2年前からベトナム国内向けに製造しており

ます。マイクロファイバーを利用した商品は、通常の綿を使用したクッションに比べ2倍以上の価格になりますが、お客様からは好評を頂いており、販売数が伸びている商品になります。

当社の真空パック商品は、空気を入れて膨らませた状態になって初めて商品として利用されます。そのため、原状回復力の高い綿を使う必要がありますので、現地生産に当たってはベトナム国内産のものをはじめ、様々な原材料を試して最も真空パックに適した素材を利用しています。

当初はベトナム国内での材料の調達も行っていましたが、安定的に調達することが難しかったため、現在は原材料の綿は中国、韓国からの輸入がメインになっています。

また、クッションと枕以外では去年からベトナム国内向けの寝具の販売もスタートしました。ベトナムの布団は日本の布団とは違い非常に薄くてきており、カバーなども無いのが特徴です。現地のメーカーの製品や現地の人々のライフスタイルを研究して、現地向けの商品を開発、生産しております。

女性向け、子供向けも厚みや硬さを若干変えて現地のニーズに対応しています。

ーベトナムへ進出した経緯を教えてくださいませんか？

弊社は、日本では50年の歴史を持つクッション・枕製造販売企業ですが、2000年頃から日本に中国製の安いクッション、枕が急速に普及し、価格競争が激しくなりました。国内だけでの製造・販売では限界を感じるようになりました。また、日本国内の今後の需要増も大幅には見込めないため、海外への展開を検討するようになりました。

進出先の候補としましては、当初はタイが有力視されておりました。といいますがタイには日本でクッションの中に使用する綿の共同開発などを行っている企業が既に進出されておりましたので、進出先としては妥当ではないかと考えておりました。

しかし、実際にタイへ現地調査へ行った際に現地の日系商社にお話を伺うと、繊維関係での進出であればタイは既に遅いので、ベトナムが狙い目ではないかというお話を伺うことが出来ました。

そこで、それまで全く候補ではなかったベトナムが急に海外進出先の候補として浮上ったのです。

更に実際タイの現状を調査してみても、既

に繊維関連業種ではバンコク近郊では税制の優遇措置なども受けられないことが分かり、次第に本格的にベトナム進出の可能性を検討するようになりました。

そこで実際にベトナムを何度か訪問し現地調査を行う中で、ベトナムにはまだまだこれから発展の可能性が多く残されていると感じるようになり、最終的には本社の代表の決断によりベトナムへの進出が決定しました。ベトナムが候補に挙がったのは海外進出を検討してから暫く後ではあったのですが、ベトナム進出を決定してからは、現地法人設立までは非常にスムーズに進みました。

ーベトナム人従業員の評価は如何でしょうか？

設立当初はスタッフとワーカー合わせて35名からのスタートで現在でもまだ40名ほどとなっています。

弊社の業務内容は労働集約型の産業ではありませんので、それほど人員は必要ではないのですが、昨年から寝具関連製品の製造もスタートしましたので、今後は2倍程度まで人員を増強して行きたいと考えています。ベトナム人スタッフについては、個々によって評価も違いますので一概には言えないのですが、やはり離職率の高さは困りますね。弊社の場合も創業当時から残っているスタッフと現場担当者がそれぞれ1名いるのですが、それ以外のワーカーは入れ替わりが激しくて、中々定着してくれません。

定着率が悪いとどうしても作業効率も落ちますので、今後は何とか定着率を上げたいと考えており、2年前からは勤続給制度も導入したり、さらなる方法を模索している状態です。

ー男性従業員と女性従業員の違いは感じますか？

弊社の場合全従業員の8割程度が女性で、残りが男性です。クッションなどの製造

ですとあまり重たいものは扱わないように思われそうですが、実は原料になる綿は一塊が300kgもあります。そこから材料を取り出して機械に投入するのは結構な力仕事になりますし、出荷する際にも真空パックされた商品が詰まっていますので1ケースあたりの重量が40～60kg程の重量になりますので、そういった部分では男性従業員の方が頼りになります。

また、機械設備のメンテナンスなどの仕事でも男性スタッフが活躍してくれますね。弊社の場合ですと男性と女性でそれぞれの役割が明確にありそれぞれの性質に合わせて作業分担していますので、特に男女の差というのは感じません。

ーベトナム国内向けの販売は順調に進んだのでしょうか？

ベトナム国内での販売は始めた当初は順調に売上は伸びてきたのですが、ここ1～2年のベトナムの急激なインフレや原材料の高騰により、売上が伸び悩んできています。弊社の商品は、食品などの生活必需品とは違い、消費が落ち込んだ際には、買い控えされ易いものでもありますので、そういった意味でも物価の高騰の影響があるのかと考えています。

ただ、ベトナムの市場の潜在顧客はまだ相当数があると考えていますので、今後は大手スーパーだけではなく、寝具店やインテリアショップなどの販売店舗にも幅広く弊社の商品を取り扱っていただけるようにしていきたいと考えています。

ー国内販売をされる上で苦労されたことはありますか？

ベトナム国内向けの場合、通常全額前払いで製品を卸しているのですが、一度、ある販売店で何度か取引をする中で、信用して後払いを認めたことがあります。すると、その

販売店の支払いが滞るようになってしまひまして、代金を回収するために警察や役所など様々な所に出向いて解決策を模索したのですが、最終的には裁判所の和解案によって全額支払ってもらった事態にまで発展しました。もちろん、それまでには、本業に加え非常の多くの手間がかかってしまい、大変な苦勞しました。

ベトナムでは特に販売店の財務能力が見えにくい部分がありますので、今後販売店を増やしていくためには、与信の問題は頭が痛いところではあります。

ー今後の展望は如何でしょうか？

先ほども申し上げましたようにまずはベトナム国内での販売店の強化を図り、ベトナム国内での販売を増やして行きたいと考えています。

また、今年は日本の大手販売店さんとの契約も決まりましたので、日本への輸出も更に増やして行きたいと考えています。

工場のキャパシティとしてはまだまだ余力がありますので、人員の増強も含めて、生産規模を更に拡大し、販売を増やして行きたいと考えています。

現在の生産量が月間に約4万～5万個ですが、将来的には月間に14万～15万個の生産を目指して行きたいと考えています。

よく言う話ですが、睡眠というのは健康の為に重要な要素の一つで、よく眠るためには自分に合った枕を使用することが非常に重要です。皆様にも是非、自分に合った枕を見つけて、睡眠にとっての枕の重要性を知って頂きたいと思っています。その中で弊社の枕も手に取って比較し、試していただければ嬉しい限りです。

ーありがとうございました。

綿やマイクロファイバーの計量



真空パックの高い技術を持つ



ソファ製品なども手掛けている

